

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500274		
法人名	社会福祉法人コスモス会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	宮崎県小林市真方5038-1		
自己評価作成日	令和5年11月5日	評価結果市町村受理日	令和6年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・その人らしく生活できることを目指し支援行っています。
- ・毎朝廊下で歩行訓練を行い、テレビを見ながら体操する事を日課としています。
- ・水分摂取、排便コントロールを行い、体調管理を行っています。
- ・レクレーションや、手作業など毎日を楽しみ過ごすことが出来るよう支援行っています。
- ・清潔に気を配り、暮らしやすい生活ができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に、運営母体と同じ特別養護老人ホームが併設されており、共通の基本理念と施設運営の理念に沿って、その人らしい暮らしを送ることができるよう努めるとともに、合同防災訓練や重症化した時の連携等で利用者が安心して過ごせるよう取り組んでいる。

見晴らしのいい立地を生かして、食堂ホールや浴室、居室が配置されており、霧島連山の景色を眺めながら過ごせるようになっている。

職員は、経験は豊富で、認知症高齢者を理解した支援に取り組みながら、笑顔を絶やさず働くことで、楽しく、働きやすい職場となるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人で「基本理念」「基本方針」「行動指針」があり、その日のひだまり会で担当が唱和し、共有している。	法人が、地域と共にその人らしい暮らしが送れることを目標に作り変えた基本理念と施設運営の理念を、毎朝、交互に唱和して実践に活かせるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所全体の課題として、地域の交流ができるよう努めていく。	コロナ禍の制限により、地域との交流の機会が減ったままになっているが、地域の代表者による地域行事の紹介等、情報提供は行われている。市内の高校生の実習受け入れによる交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談員の訪問、地元の高校生の実習等、交流する事で、理解して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や、家族代表や行政の方に参加して頂き、活動報告行い、出席のメンバーより助言や、意見頂き、サービス向上に活かしている。	グループホームからは利用者状況や職員の研修内容等、適宜報告が行われ、それに対する参加者の意見等が活発に出されている。錠剤が口から落ちやすい利用者の薬を粉剤にすることの助言があり、粉剤に変更し改善されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の行政職や担当者など、連絡取りながら、意見や助言頂き、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者に、普段から入院の報告や入院による状態変化時の区分変更についての相談などが行われている。若年性認知症の利用者受け入れについても、助言をもらって対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的勉強会や、研修を行っている。また職員同士でも確認したり、理解しながら取り組んでいる。	法人全体やホーム独自で、身体拘束をしないケアについての研修を行っている。身体拘束の具体的な内容を理解し、言葉による拘束をしないことや玄関や居室の施錠はしない方針での取り組みが行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の勉強会も含め、常に人権を考えながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の制度の必要性と、制度を活用できるよう勉強会の機会を持ち、利用者・家族等に周知し、活用できるように支援行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、契約書にて家族に説明し、不安のない様に、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、利用者の家族と、コミュニケーションを取りながら、意見や要望を聞き、職員と共有行い、意識の向上に努めるようしている。	面会時に、利用者の状況を伝え、家族からの意見や要望を聞くように努めている。コロナ禍で、面会ができないとき、家族と協力し、SNSでのビデオ通話や写真送信等を行う取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のひだまり会議で意見や提案を聞く機会を設けている。また気軽に言える雰囲気作りに努めている。	毎月のひだまり会議で出された意見や管理者が職員から直接聞いた意見等は、施設長に報告し、内容によっては、法人の統括主任にも報告するようにして、意見が運営に活かされるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内にて、年1回自己評価を実施している。また、休み希望等可能な限り、要望に応え、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修や、パソコン内でのWEBでの研修に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者と交流する機会がないが、交流する機会を持ち、サービス向上に努めたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心できる言葉かけを行い、表情や、様子の変化に気をつけながら、関係性を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス前にパンフレット渡したり、家族の希望があれば見学して頂き、不安にならない様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や、居宅サービス事業所、他サービス事業所など連携とりながら必要に応じて支援内容見極め徐々に馴染みながら、安心して利用できるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との関わりの中で、生活の知恵や、ことわざなど教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にも情報共有しながら、一緒にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室利用や、デイサービスの、馴染みの利用者と面会できるよう、支援に努めている。	併設のデイサービスの利用者やヘルパーセンターのヘルパーに馴染みの人がいて、敷地内の散歩で会いに行って話せるように支援している。家族だけでなく知人の面会も、予約して実施できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにソファを置き、好きな所に座り、利用者同士が、仲良く過ごせるように、また皆さんと関われるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者とのサービス契約が終了しても、家族等外出先で気軽に話ができるような関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の中での会話で、本人の思いや希望を聞き出したり、既往歴見直したりしている。	畑作業をしてきた人、食事作りをしてきた人など、話の中で利用者一人ひとりの過去の役割を理解し、思いを把握するように努めている。活動や運動等は、利用者の好き嫌いや得意不得意に合わせて自由に参加できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の話を聞くなどしたり、利用者同士で話をされているのを聞くこと等で情報収集を行い、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に何ができるか、何をしたらいいか、楽しんで生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録を評価し、また職員の意見やアイデアを共有して介護計画を作成している。また、家族の意見も聞きながら行っている。	毎月のモニタリングや職員会議での意見等を踏まえ、本人や家族の思いや意向等を聞いて、担当者、管理者、ケアマネージャーで話し合い、現状に即した計画を作るよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、気になった事等、ケアカンファレンス時に報告したり、個別の記録とは別に、職員で共有しているノートに記録し見直し、介護に活かしている。		

宮崎県小林市 グループホーム「ひだまり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診など、有償ヘルパーや、タクシー等利用している。また、同施設とも連携しながら、支援行っている。(ヘルパーセンターの馴染みの職員に会いに行ったり、お茶を飲む等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容院・病院・郵便局や、教育機関のボランティア等関わりながら支援行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、家族同行でお願いしながら、病院、家族と連携取りながら支援行っている。	入居後もかかりつけ医は変更せず、家族同行の受診が行われている。受診時は、普段の様子等の情報提供を行っている。移動、移乗が困難な利用者の送迎、緊急時の受診等はグループホームで対応している。義歯の破損に歯科の往診で対応するなどの支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設の看護職の協力を得て、緊急時に相談できるようにしている。また、かかりつけ医と連携取れるよう、情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者や、家族と相談・連携を取り、家族や、利用者が安心できるよう努めていく		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族に事業所の状況を説明し、重症化した場合の事等、その都度家族に説明し、理解を得ている。	看取りは行っていないことは、契約時に説明している。重症化した時は、その都度、家族、関係者で話し合いを行い、方針を決めるようにしている。医療的処置が必要な時は、入院、その後併設の特別養護老人ホーム入所等を関係機関と連携し、検討するよう取り組んでいる。	看護師が不在で、看取りの対応ができないことは、契約時に口頭で説明を行い、同意を得ているが、重症化の場面になったときに誤解や迷いが生じないようにするためにも、終末期の方針を記載した書面による同意を得ることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の緊急時や、事故発生時に備えて勉強会等に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。又、同施設と、合同で行うことによって協力体制を整えている。	毎月、自然災害や火災の防災訓練を行っている。訓練には、消防署職員が参加し、訓練指導を行っている。併設の施設内の火災発生元を変えての訓練等が行われている。ホールに防災頭巾が置いてあり、すぐ使えるように備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いにならないよう、言葉かけを行っている。方言を使ったり、笑いのあるこえかけおこなっている。	利用者は姓で呼ぶようにしており、慣れ慣れしい話し方で、人格や誇りを傷つけることにならないように努めている。恥ずかしがりの利用者が、苦手なことで、ほかの人からの恥ずかしめに合わないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の利用者との会話の中で、本人の思いや希望を聞きだせる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にしながら、支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみを一緒に支援し、入浴時、洋服の希望を聞いたりしている。敬老会などイベント時は、特におしゃれができるよう支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手な食材の時は、変更し楽しんで食事ができるよう支援行っている。お盆拭きや、テーブル拭きなどお願いしている。	毎食の味噌汁とご飯は、グループホームで作し、利用者が煮炊きする雰囲気を感じられるよう取り組んでいる。利用者がおやつ作りをしたり、天気の良い日に屋外で昼食を食べたり、行事食を企画したり、食事が楽しみになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や、医師など連携を取りながら、食事チェック表により、体調管理行っている。食材においては利用者に応じてカットなど行い提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず、口腔ケアを行っている。利用者に応じて、声掛けや支援している。又、訪問歯科も利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握しながら、早めに声掛けし、自立に向けた支援を行っている。	尿意のない利用者には、定期的声掛けで、トイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツを利用する利用者は、パッド等を本人の排泄の状況に合わせて検討し、負担軽減に努めている。布パンツ利用で、排泄が自立した利用者も複数いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人利用者に応じて、排便の様子観察し、毎日運動することで、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認して、気持ちよく入浴できるよう支援している。そして、個々に入浴支援を行っている。	月曜～土曜日の午後に、週2回入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、歌や踊りで関心をそらしたり、タイミングをずらすなどの対応をしている。長湯、湯温の好み等一人ひとりの希望に応じた入浴、ゆず湯など入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はソファにてゆっくり過ごしていただき、本人の意思に沿って休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の内容を確認し、また、変更があった時は職員で共有するようにしている。医療関係者と連携を取るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人、やりがいや、楽しみのあることが出来るように常に考えている。個々でできる事、全員でできる事等支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外を散歩したり、外でお茶を飲んだりしている。同施設内に遊びに行ったり、家族の希望があれば、できる限り支援行っている。	天気のいい日は、敷地内の散歩をしたり、近所にアジサイが咲いているときは、歩いて見に行ったり、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。季節ごとに花見ができる場所に、車で出かけて、花見を楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が食べたいもの(飴など)等の購入したり、外出した時に好きなものを買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人持ちの携帯電話で話をされたり、誕生日や母の日等、イベント時に手紙が届いたり、また、手紙を送ったり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節を感じる、手作りのカレンダーを飾り、廊下や空間にも、利用者が作ったものや写真等飾り、工夫している。	食堂兼ホールには、ソファが置かれ、利用者が自由にゆっくりと過ごせるように配置されている。ホール内には、利用者が一緒に作った季節感のある飾り付けが飾られている。廊下やトイレ前のスペースなど広々としていて移動がしやすい作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを置き、ゆっくり過ごせるよう工夫している。気の合った方同士で話をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、持ち込みのテレビを置いたり、家族写真等飾り、居心地よい部屋作りをしている。	馴染みの物や家族からの贈り物等が、きれいに飾られており、家族とのつながりを感じて過ごせる居室となっている。エアコンの風を気にする利用者には、エアコンの本体に紐でつるした飾りをつけ、風が出ていないことがわかるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に本人が作った作品を飾るなどして、季節感や、親しみのある様に飾りつけ行っている。		